

# 会議報告書

期 間	28年 7月4日 19時～21時30分
場 所	緋の郷 市民交流館 第9市民活動室
用 務	まちづくりプロジェクト 第1回実行委員会
出張のてん末 (概要)	<p>1. 開 会</p> <p>2. 自己紹介 実行委員 ～ オブザーバー ～ 事務局職員 の順</p> <p>3. 説明事項 (1) まちづくりプロジェクトについて (2) 実行委員会の目的と進め方について (3) その他 資料により、事務局から説明 ※委員①から補足 …計画当初は数百ある緋の郷登録団体が、「お互いを知らない」「コミュニケーションが不十分」等の課題があり、「緋の郷登録団体の半数をシステムへの登録団体にする」という目標を掲げていた。そのため、活用のためのレクチャーやフォローアップを行っていたはず。 事務局 …年2回の情報交換会の中で、指摘の様な機会を設けていたが、昨年から行っていない。(依頼があれば、都度対応)</p> <p>4. 役員の互選 …会長を間宮委員とした</p> <p>5. 意見交換 ※意見交換に先立ち、議事概要および会議風景をまちづくりプロジェクトへアップロードする旨を説明、了解を得る</p> <p>委員②) まちづくりプロジェクト登録のキッカケは、メンバー集めの情報検索でヒットしたこと。情報発信は自団体でHPを開設しているため、まちづくりプロジェクトでは行っていない。</p> <p>委員①) まちづくりプロジェクトに興味を持つ層は、もともとHPを持っている場合が多い。</p> <p>委員②) 現在ではHPは電話帳と同じような物で、情報発信は自分のサイトで手一杯 (年に3回程度の更新)</p> <p>委員⑦) 自分は複数のHPとFB、個人FB等を運用している</p> <p>委員①) デジタルデバイド (情報格差) が広がる中で、出来る人とできない人が分かれてきている</p> <p>委員③) (まちづくりプロジェクトのような) 発信媒体もメリットが無いと労力を割こうとは思わない。そのため、情報発信は増えない。</p> <p>委員①) 今は自らの投稿に反応が無いと満足しない時代で、そのため反応がある投稿を求めてエスカレートする現象も起きている。まちづくりプロジェクト特有のメリットとは何なのか?</p>

委員②) 団体メンバーの連絡も今はLINEでつながっている。インターネット上は公共の場で、叩く人がいる。言葉尻を気にする必要がある、疲れる。

委員⑦) 自分は複数の媒体を運用しているが、その目的は参加者集めやボランティア集め。FB等は広く拡散するが範囲は知人に限定される傾向がある。一方、まちづくりプロジェクトにおいては、少数かもしれないが、つながりのない人から反響がある。ただ、投稿に対して手ごたえが無いのが問題だと思う。その点では、メーリングリストの様な機能も欲しい。公開でなく閉ざされた中での自由な意見交換ができないと、機能改修等の要望も気軽に発言できず、また、横のつながりは構築しにくい。

委員①) 現在はそのような機能はあるのか。

事務) 開設当初からの機能として掲示板があるが、活用されていない状況。また、メーリングリスト等は備えていない。

県内では群馬県が早くからボランティア等の情報交換を目的としたメーリングリストを運用している。

委員①) まちづくりプロジェクトのメリットとしては、「信憑性」「広告が無い」等が挙げられると思うが、意見を聞くとそれだけでは不十分といえる。

委員⑥) (アイマップネットワークで) サイトへアップした記事をFB等でシェアすると、それだけでアクセス数も上がる。まちづくりプロジェクトでの運用状況は分からないが、そのような手間が割けない仕組みなのか？

委員①) ファイルサイズの制限とか、スマホ非対応とか様々な制限があり、また、情報発信の際の使い勝手も良いとは言えない。いずれにしてもここ数年のSNSの進化が早すぎる結果とも言える。

imap) スマホ化は実行委員会での議論を踏まえ、何度も市に要望を挙げているが、予算が通らない。誰もがデバイスを持ち歩く時代なので、スマホ版のみあれば良い位だとは思っている。

委員①) まちづくりプロジェクトのメリットは確かにあるが、強いものとして感じられないようだ。また、今泉委員のように頻繁に更新せず、団体の入口としての使い方も良いのかもしれない。

委員④) デジタルデバイドは次第に無くなっていくかと考えていたが、2極化が進む一方。必要性の問題なのか、老若問わずICTを得意としない層が多いと思う。興味は持つが、まちづくりプロジェクトのサイトへたどり着かない人が、自分のまわりでも多い。紙媒体が生活の中心である人には、ロゴ活用などの周知も必要では。

事務) まちづくりプロジェクトの画像素材は、市民活動に関するものであれば自由に活用して頂いて構わない。

委員①) そもそも(まちづくりプロジェクトを)知らない、それでも不自由しない、声が届く範囲のコミュニティに満足している層がいる。

委員④) 登録団体が一堂に会した交流会の開催が必要ではないか。

事務) 開設当初は登録団体向けの場づくりも行っていたが、団体の反応や参加度もあって次第に機会が減少したと思われる。

委員①)「裾野をひろげる」ことと、「メリットを強調する」ことの双方の取組みが必要で、例えば、使えない人に対しては紙媒体での周知など。

委員⑤) 自分が所属する団体は若者が中心になり子供に体験を提供するボランティア団体であるが、まちづくりプロジェクトは登録のみで活用していない。他にFBとHPがあり、HPはほぼ運用していない。FBでは会議の様子や行事を伝えており、楽しさを伝える事を大事にしている。まちづくりプロジェクトは目に留まる機会が無く、また、スマホで見られないなど、知らない人(特に我々学生)には全く魅力がない。

委員①) 若者は何をメリットとして感じているのか?

委員⑤) 自分はSNSの中で楽しさを共有したい、また、感動をシェアしたいと思っている。

委員①) SNSには情報の探しづらさが欠点としてある。FBのタイムラインでは情報がすぐに風化してしまう。「地域」というくくりで特化して、特有の魅力を考えて、、、

委員③) 自分が若かったころの事を思い出すと、「発信したい」「自分の事を言いたい」という気持ちがあったように思う。SNSでは自分を発信したい目立ちたがりの気持ちがあり、投稿への手ごたえを求めている。

委員⑥) 「コレ美味しい!」とか「カワイイね!」とか。

委員②) インターネットを通じて世界中へ発信したいと思っているのか。

委員⑤) そうではなく、周りに知ってもらいたいだけ。友達同士に限定する場合には鍵を付けたり、公開範囲を限定したりする。

委員①) SNSでもつながるのは面識がある人に限るのではないか。バーチャルな世界だけで横のつながりを構築するのはいかがなのか。

委員⑤) ネットだけでつながる友人も自分はある。そこから意気投合して実際の友人となる場合もある。自分の場合、ツイッターではアカウントを複数運用し、「ボランティア用」「音楽用」などと分けている。

委員①) 自分の感覚と今の若者の感覚がこんなにも違うとは。

委員⑦) まちづくりプロジェクトはプライベートなSNSとは立ち位置が違うと思う。プライベートなSNSとは立ち位置を変えなければいけない。

委員①) 現在のまちづくりプロジェクトには、FBやツイッターとの連携機能はあるのか?

事務) ついていない。

委員①) 委員②)が冒頭に言った、入口としての使い方にまちづくりプロジェクトの立ち位置を切り替える必要もあるのか。

委員⑥) 市内から市外へ転出したり、逆だったりした場合に、例えば「伊勢崎」「バレーボール」で検索すると、上位に表示されるとのことで、そこから団体と個人との繋がりが出来るキッカケとなるのではないか。

委員②) コンテンツが面白くないと、サイトへも訪問しない。たとえば登録団体のイベント情報をメール配信し、こちらからアピールし誘導するなどの取組みも必要では?自分もプレゼントなどの言葉があるメールはつい開いてしまう。

委員⑦) まちづくりプロジェクトは、能動的に動く市民団体をサポートする場。

委員①) ターゲットは、、

	情報を 発信する側	情報を 受け取る側	
使っている人			
環境はあるけど 使っていない人			

の4つに分類される。この層それぞれへ取り組みを考える必要がある  
だろうが、優先順位を付ける。

アピールしたい人が使わないと始まらないとすれば、優先順位は…

	情報を 発信する側	情報を 受け取る側	
使っている人			
環境はあるけど 使っていない人			



まずは情報を受ける側となる

→

使っていない人へ口コミで広がる

→

受け取る側だった人が発信する側へ

委員②) 自分の発言での「発信」は、個々では無く、それを総括したメール  
送信を考えている。

委員①) 毎日のメール送信ではうるさくなるので、週ごとの更新情報をメー  
ルとして要約し配信する、という考え方もある。ただその場合だと、  
新たに登録団体を募らなければならない。

委員②) まちづくりプロジェクトの登録団体は、既にメールアドレスを把握  
しているのではないか。また、民間のメールサービス等が活用できれ  
ば、コストも抑えられるのでは？

委員①) 個人情報等の観点から、当初の説明を逸脱した情報利用は望ましく  
ない。また、広告やセキュリティの点を考慮すると、民間サービスの  
利用はありえない。

委員⑦) まちづくりプロジェクトは利用者が育てていけば良いのではないか。  
また、メールサービスの利用開始にあたっては、既存の団体には承諾  
を取り直す必要があるだろう。

委員①) 公共が関与するSNSサービスには、シビアな対応が求められ、また、  
苦情も多く寄せられる場合があるので、慎重な対応が必要。

委員②) まちづくりプロジェクトへ掲載されたイベント情報のメール発行な  
らば問題は無いのでは。ただ、今後内容が充実し、予期せぬ情報が発  
信される事となると、マズイ。

事務) 現在の所は、まちづくりプロジェクトの運用に関して苦情が寄せられ  
たケースは無いが、関係者同士の情報発信から、一般市民も巻き込ん  
だ流れへ変わっていく場合には、委員①の指摘等も想定される。

委員①) 自分はメールが廃れていると考えていた。実際、娘は連絡の全てをL

	<p>INEで済ませており、メールは全く見ていない。</p> <p>委員②) メール以外に同様な手段はないのか。</p> <p>委員①) FBならば、イベントページを立ち上げると周知もできるが。</p> <p>委員③) 社会福祉協議会が運営するボランティアメールはどんな状況か。</p> <p>事務) 詳しい情報は把握していないが、登録募集を積極的に行っている様子から、募集情報や登録者集めに苦労はしているとのでは、と推測している。</p> <p>委員①) 情報を発信するツールとしてのウェブサイト、と考えると、メール機能はスマホ対応よりも優先度が高く、有効な手段かもしれない。</p> <p><b>6. その他</b></p> <p>(1) 次回の日程について</p> <p>(2) 次回の検討事項について</p> <p>委員①) これまでに改修要望を挙げた項目について資料を用意してほしい …次回までに用意する</p> <p>委員④) ログをデータ送信してほしい …メール送信する</p> <p>委員①) 次回の会議において、改修要望項目の予算化まで行うのか</p> <p>imap) これまではアイマップ側で要望を踏まえて現実的に対応できるリストを作成していたので、同様に考えてほしい</p> <p><b>7. 閉会</b></p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--